

第66回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998年11月27日（金）10:30～12:30

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、木元委員

（事務局等）科学技術庁

原子力局

政策課 坂田課長、中川、坂本

原子力調査室 森本室長、板倉、村上、池亀、鈴木

国際協力・保障措置課 瀬山課長、花木

動力炉開発課 森口課長、犬塚

研究技術課 松澤

原子力安全局

核燃料規制課 片山課長、大島

資源エネルギー庁

原子力発電安全企画審査課

木本統括安全審査官、黒村、永田、小山

高輝度光科学研究センター 伊原理事長

吉鋪専門委員

4. 議 題

- (1) IAEA上級専門家会議（SEG）第3回会議及び最終報告書について
- (2) 関西電力株式会社高浜発電所の原子炉の設置変更（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）について（一部補正）
- (3) 使用済燃料輸送容器のデータ問題について
- (4) 原子力政策円卓会議（第3回）の結果について
- (5) 平成10年度景気対策臨時緊急特別枠要望における原子力関係の施策について
- (6) その他

5. 配布資料

資料1 IAEA上級専門家会議（SEG）第三回会議及び最終報告書について

資料2-1 関西電力株式会社高浜発電所の原子炉の設置変更（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）について

資料2-2 関西電力株式会社高浜発電所原子炉設置変更許可申請書（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）の一部補正の概要について

- 資料3 使用済燃料輸送容器調査検討委員会における調査審議の状況について
資料4 原子力政策円卓会議（第3回）の結果について
資料5 平成10年度景気対策臨時緊急特別枠要望における原子力関係の施策について
資料6 第65回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

（1）原子力政策円卓会議（第3回）の結果について

標記の件について、事務局より資料4に基づき説明があった。これに対し、

- ・電力の消費地でなく原発立地地域で、円卓会議を開催したことは評価された。原子力広報を専門に行うスポークスマン、環境のモニタリングは重要との意見があった。原子力立地地域振興のために税金がどれくらい徴収されているかを、電気料金の領収証に記載することを提案された。議論がよくかみ合い、中身のあるやりとりがなされた。

等の委員の発言があった。

（2）IAEA上級専門家会議（SEG）第3回会議及び最終報告書について

標記の件について、高輝度光科学研究センター伊原理事長より資料1に基づき説明があった。これに対し、

- ・原子力開発利用の推進において、国ごとに思惑の違いがあるのではないか。米、西欧（仏を除く）に比し、途上国は原子力の導入に熱心。二極化という印象。

（伊原理事長）例えば、モロッコ等アフリカの諸国では、海水脱塩炉などの小型原発を必要としているが、このことに対して仏国は、テロリストに核燃料を盗まれることから懸念している。

- ・海水脱塩、ツエツエバエ等の原子力利用に対する反対の圧力はかからないか。

（伊原理事長）途上国においては、反対活動は活発でない。また、科学技術は日常生活に役に立つものであり、政府主導になっていることが多い。

等の質疑応答があった。

（3）関西電力株式会社高浜発電所の原子炉の設置変更（1号、2号、3号及び4号原子炉施設の変更）について（一部補正）

平成10年11月25日付け平成10・05・11資第8号をもって通商産業大臣から通知のあった標記の件について、通商産業省より資料2-1及び資料2-2に基づき説明がなされた。これに対し、

- ・参考文献に何が記載されているのか。

（通産省）予定外取り出しにおけるウラン燃料の使用については、既に添付資料に記載がある。今回の補正では、予定外取り出しでMOX燃料を交換する際の評価を参考文献に記載することとしたもの。

- ・現在の社会は、自己責任の確立に向かう中途段階であり、確立されてしまえば、申請書等資料の記載事項は減るだろう。

との質疑応答及び委員の意見があり、本件については引き続き審議することとした。

注) 本件は、平成10年8月26日付け平成10・05・11資第8号をもって諮問を受けた標記申請について、申請書の添付書類の記述の適正化を計るため、一部補正を行うものである。

(4) 使用済燃料輸送容器のデータ問題について

標記の件について、事務局より資料3に基づき説明があった。これに対し、

- ・データ改ざんが行われる様な土壤が問題。それを変えることが必要。
- ・原子力の安全と安心を一致させるためには、今回の様なモラル欠如は許されない。
- ・当事者の一方の日本油脂は、本来塗料の会社であり、原子力が周りに注目されていることが分かってなかった。
- ・キャスク自体は安全であるにも係わらず、これほど大きな問題になったことについて考える必要がある。測定には誤差があり、同じ容器でも場所により濃度にばらつきがあることなどデータの持つ意味をはっきりと言い、一般の方に分かって貰うことが必要。

との委員の意見があった。

(5) 平成10年度景気対策臨時緊急特別枠要望における原子力関係の施策について

標記の件について、事務局より資料5に基づき説明があった。これに対し、

- ・展示館等にかかなりの額が計上されているが、きちんと執行できるのか。
(政策課) 事前準備などにできるだけ早くから取り組むなどにより速やかに執行できるよう努力。
- ・広報のために、展示館を作るのはいいが、地元の意向も反映して実のあるものにすべき。

(政策課) 今後の展示館の整備等にあたって留意していく。

との質疑応答があった。

(6) 議事録の確認

事務局作成の資料6第65回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。